音楽科

教科領域研究テーマ
【音故知新！　幸せ感じる音楽の力】



音故知新！　幸せ感じる音楽の力

実　践　者　来嶋　英生，遠藤　智保
愛媛大学研究パートナー　井上　洋一，木村　勢津
楠　　俊明，松井　見麿（附属小）

第１章　はじめに

１　研究テーマ設定の理由

今を生きる私たちは，音楽とのかかわりの中で，「幸福」を感じる瞬間がある。そして，価値あるものに触れることで安堵感を得ることがある。脳科学者A.R.ダマシオ(Antonio R.Damasio)によれば，知性や感性を含めた判断力こそが人間であることの証明であり，それを磨くために「感動」が重要な役割を果たしているという。そして，知性・情緒・意識という人間の精神活動を肯定的に結ぶものとして「感動」があるとされる。音楽科では，学習内容を活用して音楽表現をさせる学習指導の工夫，自分たちの手で音楽をつくりあげる体験を積み重ね，授業での生徒の「感動」という視点から，変容を見取ってきた。古い音楽を深く学習する中で，何かの意味合いを見い出し，新しい音楽と出会った時に既習内容を活用して思考・判断し，音楽を表現したり鑑賞したりする力（「多面的・多角的な思考判断」「感性・表現力」）を育てたいと考え授業を実践してきた。今年次も生徒の授業における「感動」を見取り，「幸せ感じる音楽の力」とは何か，人間と音楽の関係性を考えていきたい。

２　研究内容と方法

１年次の成果として，共通教材において，心情や情景など，思いをもつことの大切さやそれを表現するための歌唱の技能を学習し，さまざまな音楽で生かす授業展開を継続的に行ったことで，特に生徒が学習した歌唱技能を活用して歌おうとする姿勢が見えてきた。また，学年が上がるにつれ，思考・判断する際の価値判断基準も高まってきている。今年次も１年次と同様に，詞や楽語，作曲された時代背景や作曲者の生い立ちなどの事実を基に，仲間と協同し，多面的・多角的な思考判断をしたり，感性を生かしたりして音楽をつくり上げる体験を積み重ねさせ，音楽の認知をさらに深めさせたい。評価として，生徒の授業中の発言や感想文などから，生徒の音楽の「感動」の場面を見取っていく。

(1)　学習した内容や技能を活用する教材選択や題材構成

多面的・多角的な思考判断をするためには，知識が必要となる。単に用語の意味を知っているだけでなく，何を表現するために必要なのか，心をともなう知識が大切だと考える。そのために，表現と鑑賞，創作と鑑賞，表現と創作などを関連付けた題材を構成する。また，生徒の実態に即し，題材のねらいを達成するにふさわしい教材を選択していく。さらに，歌唱技能の定着のために，専門性を生かしたTTを活用し，継続的にヴォイストレーニングを行っていく。

(2)　生徒同士のかかわり方を中心に，自主的な活動が行える場の設定

昨年度までの生徒の音楽の授業での「感動」の要因では，「音楽表現の仲間や自分たちの力でつくりあげていく喜びや仲間との共感」に感動している生徒が多いという傾向がある。そのよさを生かし，さらに向上させていきたい。演奏をつくり上げていく際に，教師の指導の例や学習したことを活用し，自信をもって活動することができるように，また，仲間と協同して活動していく中で，多面的・多角的な思考判断をさせる。

(3)　教師の子どもの見取りや子どもの自己の振り返り評価を中心にした評価の在り方

子どもの授業における自己評価を大切にし，生徒の見取りを大切にした授業を進める。また，生徒の授業での活動の様子や変容を観察し，生徒の実態に応じた授業を展開する。また，生徒の変容を見取るために，アンケートによって授業における「感動」の要因を分析し，どんな音楽や活動によって幸せやときめきを感じることになるのかを見つめていく。

第２章　研究の実際

研究（その１）

１　本題材と研究テーマとの関わり

１年生において，生徒の意識が［旋律］や［ハーモニー］に向くように，カノンコード進行を中心に据え，鑑賞と創作，鑑賞と表現を関連付けた学習の展開を構成した。「パッヘルベルのカノン」を鑑賞し，カノンコードの和音の構成音やモティーフの反復や変化を意識させた創作を行った。そして，個人で創ったものをペアで鑑賞し，よい作品を全体に紹介し，それらを参考にして再考させた。演奏技術や記譜といった生徒が苦手とするハードルをさげるために，iPadを活用した。さらに，カノン進行が使われている「夢の世界を」の合唱を行った。また，２年生で学習する「フーガ」につなげることを意識し，題材を構成した。

２　題材

カノン進行の秘密（全８時間）【歌唱教材：「夢の世界を」鑑賞教材：「パッヘルベルのカノン」】

３　題材目標

他者や音楽と主体的にかかわり，曲のもつよさを生かした音楽表現を楽しませる。〔A表現：歌唱ア，イ，ウ〕

４　題材の評価規準

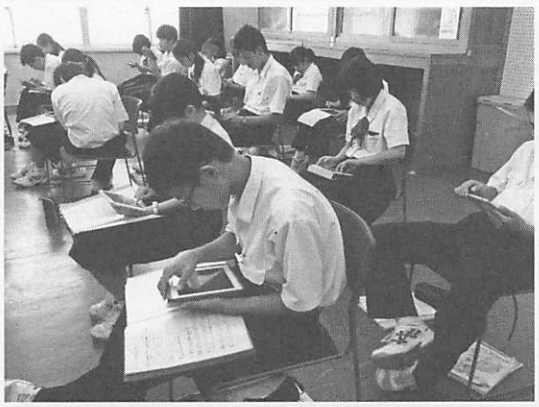
	ア　音楽への関心・意欲・態度	イ　音楽表現の創意工夫	ウ　音楽表現の技能	エ　鑑賞の能力
題材の評価規準	①音楽を形づくっている要素の特徴や時代背景について知り，楽曲のおもしろさを意欲的に紹介している。 ②美しい音色を目指し，意欲的に歌っている。 ③音楽を主体的に創作したり，仲間と協力し活動に取り組んだりしている。	①コードの構成音を生かし，旋律を創作している。 ②モティーフのおもしろさやその反復・変化を見つけたり，工夫したりしている。 ③イメージにある速度や伴奏形などを，意図をもって選択している。	①歌詞の内容や曲想を生かした，曲にふさわしい音楽表現をするために必要な発声，日本語の発音，呼吸法，身体の使い方を身に付けている。	①音楽を形づくっている要素の特徴や時代背景について理解し，味わって聴いている。 ②仲間の作品のよさや課題を見つけ，鑑賞している。

５　指導計画

次	ねらい　○学習内容	具体的評価規準　（評価方法）	共通事項
第１次（１時間）	作曲された時代背景や楽曲の特徴（カノン）を知り，パッヘルベルの「カノン」を鑑賞，演奏する【名曲の秘密】 ○カノンや時代背景を知り，パッヘルベルの「カノン」を鑑賞する。	ア－①，エ－①（ワークシートの分析），ウ－①（観察）	形式 テクスチャー 音色
第２次（１時間）	コードについて知り，カノン進行の音の響きを体感する【日本人が大好きなカノン進行の秘密！－ヒット曲の法則！】 ○iPadを使い，カノン進行のハーモニーを感じ取る。 ○「GarageBand」の「SmartGuitar」を使い，カノン進行を演奏する。 ○カノン進行を使った楽曲を知り，その進行でつくられた旋律を見つけ，発表する。	ア－③，イ－②（観察・ワークシートの分析）	和音 旋律 リズム
第３次（３時間）	表現したいイメージをもち，反復，変化を生かした旋律をつくる【自己紹介ソング「My Song」をつくろう】 ○自己紹介のために，カノン進行にあう旋律を創作する。 ○個人↕ペア→小集団で協力して旋律を創作する。 ○「My Song」を発表し，他の人の作品のよさを見つけたり，アドバイスをしたりする。	ア－③（観察） イ－①～③，エ－②（ワークシートの分析・作品データの分析）	旋律 リズム 音色
第４次（３時間）	混成三部合唱の響きを感じ取り合唱する【このコード進行は？初めての混声三部合唱　ハーモニーに意識して「夢の世界を」を歌おう】 ○変声について知る。 ○「夢の世界を」の音取りをし，ハーモニーを意識して歌う。	ア－②，ウ－①（観察）	旋律 ハーモニー テンポ

以下，第３次（１／３）の実践を紹介する。

学習活動（形態）	○指導上の留意点　◇評価（評価方法）
1　カノン進行を全員で演奏する。 （一斉）	○カノン進行のおもしろさを味わわせるために，全員の演奏に合わせて，生徒が知っていそうな楽曲の旋律を演奏させた。
2　本時の目標を知る。 （一斉）	○学習の意欲を換気させるために，教師がつくった作品を紹介した。
自己紹介ソング「My Song」をつくろう	
3　自己紹介ＣＭソングをつくる。 （個人↔ペア）	◇音楽を主体的に創作したり，仲間と協力し活動に取り組んだりしているか。（観察） ○自分の思いが音楽になるようにするために，机間巡視をし，困っている生徒にアドバイスをした。 ◇コードの構成音を生かし，旋律を創作しているか。 ◇モティーフのおもしろさやその反復・変化を見つけたり，工夫したりしている。（観察・ワークシートの分析）





iPadを使い創作している様子

4　工夫のある作品を聴く。 （一斉）	
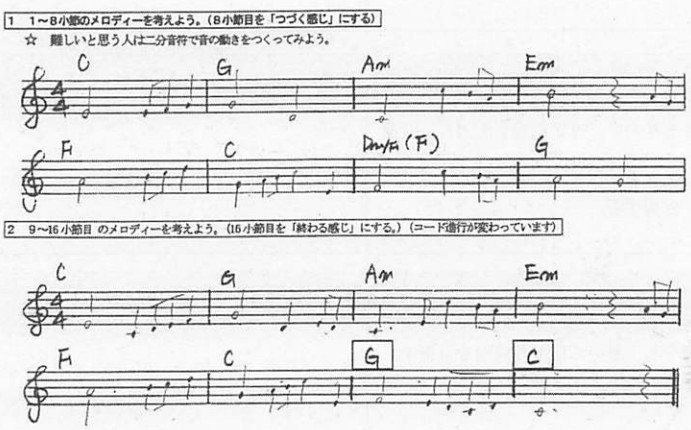


図１　紹介した生徒作品

	○モティーフのおもしろさやその反復・変化を意識し，次時につながるように，生徒の作品を紹介した。

研究（その２）

１　本題材と研究テーマとの関わり

本題材では情景や心情を歌でどう表現するかを学習させることをねらいとし，より豊かな音楽表現を目指すことで，音楽の深さやおもしろさを生徒に体感させたいと考えた。そのために，共通教材である「花」において，楽曲の構成や楽語，歌詞の解釈などから思考・判断し，歌っていくことをしっかりと行った。そして，他の楽曲でそれを活用させようとした。

２　題材

表現力UP ！ ～伝えよう思いを～【歌唱教材：「花」「桜の季節」「私からあなたへの歌」】

３　題材目標

他者や音楽と主体的にかかわり，自由な発想で表現を工夫するとともに，曲のもつよさを生かした音楽表現を楽しませる。〔A表現：歌唱ア，イ，ウ〕

４　題材の評価規準

	ア　音楽への関心・意欲・態度	イ　音楽表現の創意工夫	ウ　音楽表現の技能
題材の評価規準	①歌詞が表す情景や心情，曲想を生かし，曲にふさわしい音楽表現を工夫して歌う活動に主体的に取り組もうとしている。 ②よりよい表現をしようと，仲間と協力して活動している。	①音楽を形づくっている要素（リズム，旋律，強弱，テクスチャ，ハーモニー，テンポなど）を知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受している。 ②歌詞の内容や曲想を味わって，曲にふさわしい音楽表現を工夫し，どのように歌うかについて思いや意図をもっている。	①歌詞の内容や曲想を生かした，曲にふさわしい音楽表現をするために必要な発声，日本語の発音，呼吸法，身体の使い方を身に付けている。

５　指導計画

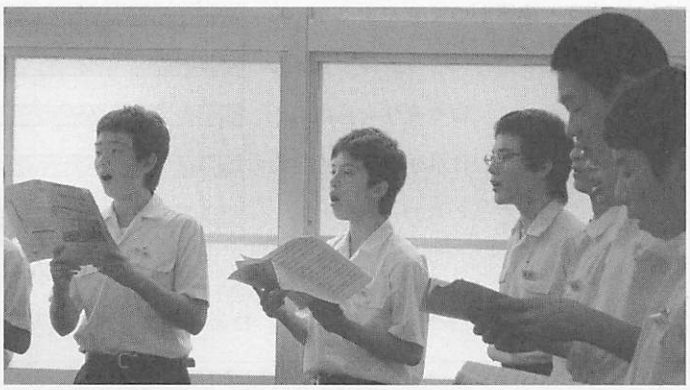
次	ねらい　○学習内容	具体的評価規準　（評価方法）	共通事項
第１次（３時間）	情景をイメージして表現する【歌い継がれる日本の歌「花」を歌おう】 ○楽譜通りの「花」と休符のない「花」の違いやその効果を知覚・感受できる。 ○「𝄽」の効果について考える。 ○強弱記号の働きについて感受する。 ○作詞者，作曲者の思いに基づき，表現する。 ○一人で「花」を歌う。（歌唱テスト）	ア－①，イ－②，ウ－①（観察）	旋律 強弱 テンポ 音色
第２次（６時間）	情景をイメージして表現しよう【Nコン課題曲に挑戦「桜の季節」を歌おう】 ○仲間と協力して音取りをする。 ○歌詞，ハーモニー，強弱，曲の構成など，楽曲の特徴をとらえ，合唱する。 ○ポップスとクラシカルな楽曲を鑑賞し，それらの音楽の曲想や演奏者の感じ方を感受し，表現の工夫をする。	ア－①，イ－①②，ウ－①（観察・ワークシートの分析）	強弱 旋律 ハーモニー テクスチャ 歌い方 構成要素同士の関連
第３次（５時間）	混声四部合唱に挑戦！【「私からあなたへの歌」を歌おう】 ○混声四部合唱の響きを味わい，既習内容を活用し，合唱する。 ○歌詞を味わい，曲にふさわしい表現をする。 ○楽曲の構成を考え，表現する。	ア－①②，イ－①②，ウ－①（観察）	旋律 ハーモニー 強弱 構成要素同士の関連
第４次（４時間）	松山市中学校連合音楽会に向けて【思いを歌で伝えよう】 ○学年で自主的に練習をし，思いの伝わる演奏を目指す。 ○より豊かな表現になるよう工夫をする。	ア－①②，イ－①②，ウ－①（観察）	旋律 ハーモニー 強弱 構成要素同士の関連

第２次（４／６）では，曲想を変化させるためにポップスとクラシカルな楽曲を鑑賞し，そのニュアンスを「桜の季節」の中で生かそうとした。生徒と教師が共に表現の工夫をし，よりよい演奏にするために行った実践を紹介する。

学習活動（形態）	時間	○指導の工夫　◇評価（方法）
1　ボイストレーニングをする。 （一斉） 2　「桜の季節」を歌う。 （一斉）	5 5	T2：○表現の工夫をする際に生かすことができるようにヴォイストレーニングを行った。 T1：○「桜の季節」で活用できることを気付かせるために，「花」を歌わせた。 T1：○「桜の季節」を歌う。自分たちの演奏が客観的に評価できるようにＶＴＲに録画した。
曲想を変化させよう～クラシックとポップスの融合?!		
3　表現の工夫をする。 （一斉）	20	T1：○クラシック的な歌い方とポップスの歌い方の違いを感受させるために，「天使にラブソングを」から楽曲を鑑賞させ，それぞれの演奏について，感じたことを発表させた。 T2：○ゴスペルのノリを感じさせるために，ステップとハンドクラップをさせた。 T1：○「くしゃくしゃな君の楽しそうな笑顔も～」の部分を，ゴスペルのノリを感じさせて歌わせるために，アルトと男声を取り上げ，歌わせた。 T1：○上の部分と対比させるために，「さくらの季節　また会おうね」の部分を聖歌隊風に歌わせた。



ゴスペル風に歌う様子



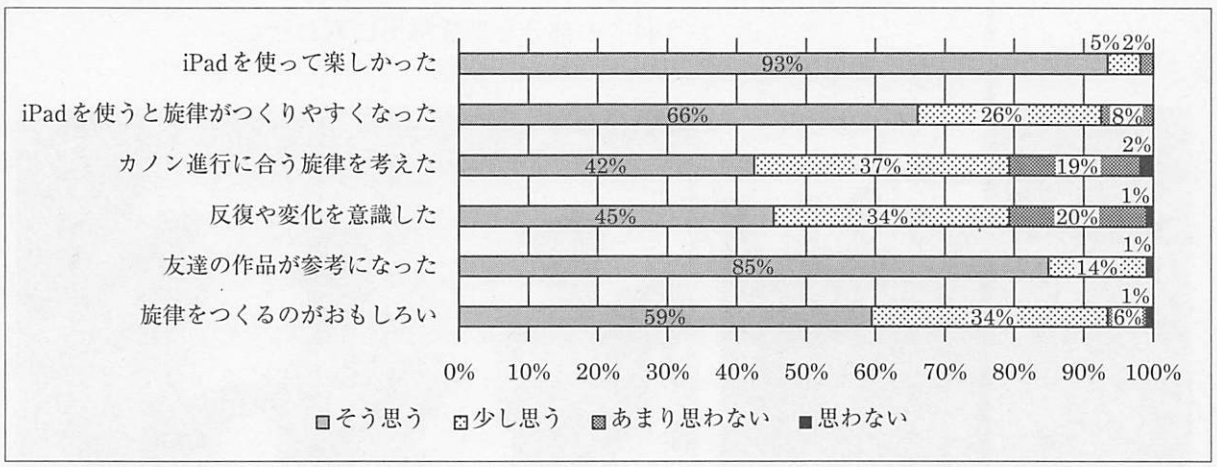
聖歌隊風に歌う様子

	10	T1：○大サビ「これからたくさんの～」をどんな風に歌うのか意見を発表させ，表現の工夫をさせた。 • ゴスペル風に歌い，盛り上げたい。 • 聖歌隊風にレガートで歌うと *f* になると思う。 • ゴスペル風，聖歌隊風，両方ミックスして歌うといい。 • 「これからたくさんの～」は聖歌隊風に朗々と歌い，「すてきなことや～」は語るように歌うと変化がありおもしろい。
4　本時のまとめをする。	10	T1：○工夫したことを意識させ，「桜の季節」を合唱した。 ◇表現の違いを知覚・感受できているか。表現するために必要な技術を習得しようとしているか。（観察）

第３章　本研究を終えて

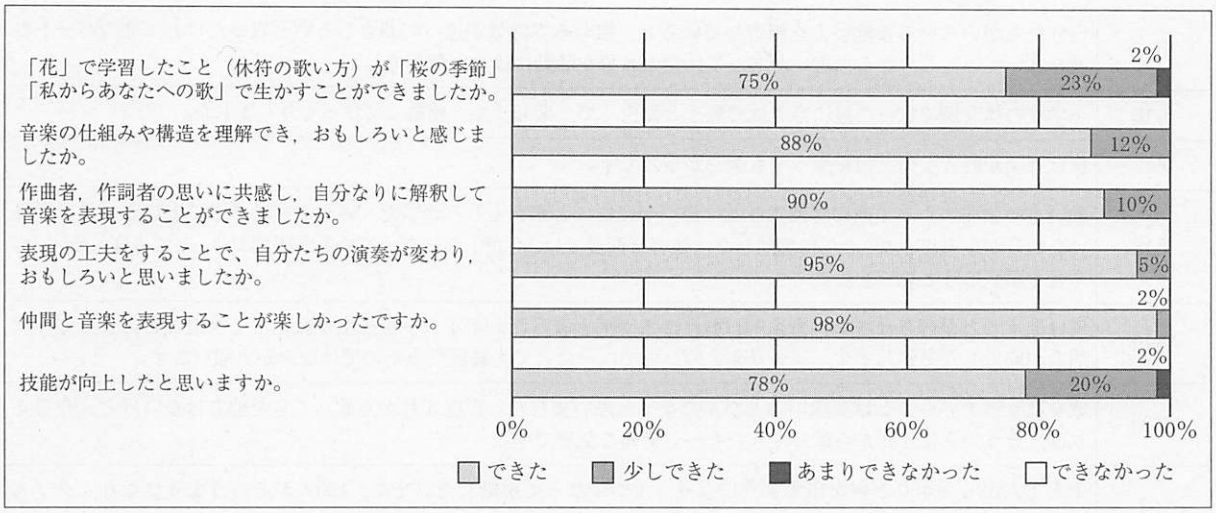
研究（その１）

第２次【名曲の秘密】では,「この曲もこのコード進行なのか」という感想を述べた生徒もいたり，後日，家庭で調べてきたりした生徒もおり，「音楽のしくみや構造を理解してそのすばらしさに驚いた」生徒が多く，カノンコードへの関心が高まった。第３次【自己紹介ソング「My Song」をつくろう】ではiPadを使うことが楽しいと答えている生徒が93%であった。その理由を「音を聴きながら作ることができる」「旋律が作りやすかった」という音楽に関するものと，「単にiPadがさわれてうれしい」と音楽以外のものとに分類した。「カノン進行に合う旋律を考える」「反復や変化を意識する」といった点では，数値が他の項目に比べ低くなっていたり，「単にiPadがさわれてうれしい」という理由が多かったりすることから，iPad活用方法については検討の余地がある。今回，伴奏形を考え，旋律を考えさせたが，曲のジャンルによる伴奏の違いに意識が向いた生徒が多かったため，旋律づくりだけに限定すればよかった。iPadのアプリの機能も多すぎたと感じた。さらに，様々な学校から入学し，小学校での音楽経験の異なる１年生においては，カノンコードでの創作は早かったと感じた。Ⅰ→Ⅳ→Ⅰ，Ⅰ→Ⅴ→Ⅰ，Ⅰ→Ⅳ→Ⅴ→Ⅰ，といった簡単なものから始めればよかった。しかし，「友だちの作品が参考になった」「iPadの操作法を友だちが教えてくれてうれしかった」など，「音楽表現を仲間や自分たちの力でつくりあげていく喜び」に該当する回答が多かったことは，良い点である。仲間の作品を紹介したことで，その作品のよさを模倣した生徒も多く見られた。第４次【このコード進行は？初めての混声三部合唱　ハーモニーに意識して「夢の世界を」を歌おう】では，早く音取りができたり，ハーモニーを意識したりする姿が伺え，学習した内容が効果的に表れた。「ぼくはうまくハモれないけれど，みんなの声を聴いてがんばって歌いたい」という感想もあり，仲間のよさを認め，共によくなりたいという意欲が向上した生徒も見られた。



研究（その２）

第１次【歌い継がれる日本の歌「花」を歌おう】では，「休符の歌い方が参考になった」「休符があることで，言葉がはっきりするのがわかった」と答えるなど，「花」でイメージや情景を表現するために，言葉を明確に伝えることの大切さを実感した生徒が多かった。また，『気持ちの高まりを表す「ｆ」を表現しようと思ったが，「ｆ」にならなかった』と述べた生徒もおり，実際にはできなかったが，心をともなった知識理解につながった生徒も見られた。第２次【Ｎコン課題曲に挑戦「桜の季節」を歌おう】開始時に行った楽曲についてアンケート（５月実施）では「メロディーが好き」「リズムの変化がおもしろい」という理由が多かった。第２次終了後には,「歌い方を変化させることで,曲想が変化してこのアレンジはおもしろい」と感じた生徒が見られた。また,「感動」に見取りにおいて「音楽の広がりや深さに満足して活動すること」に感動している生徒も増えた。第３次【混声四部合唱に挑戦！「私からあなたへの歌」を歌おう】においても，休符の感じ方や歌い方を意識して歌おうとする生徒が増すなど，学習内容を活かそうする姿が伺えた。第４次（【連合音楽会に向けて「思いを歌で伝えよう】終了後に実施したアンケート（11月実施）は次のようになった。



題材終了後の感想は次の通りである。

男１	音が途中で切れないために口の開け方を工夫するということだけで，本当に音がつながってびっくりしました。また，作者の気持ちを考えるだけで歌が大きく変化してびっくりしました。僕自身歌は下手だけど歌の良さなどを知れたので，今回学んだことを生かしていきたいです。
男２	強弱や歌い方をかえるだけで，歌がうまくなったりと，いろいろあっておもしろかった。
男３	附小の体育館のあと講堂の時がすごくてびっくりした。やっぱり３年生全員で歌ったら，歌っている側でも迫力が伝わってきて，みんなの力ってすごいんだと思いました。４月から積み重ねてきた成果が本番で出て，よかったです。
男４	発声の練習方法が楽しかった。曲の強弱を考えるのは難しかったけど，完成に近づくにつれ，歌いながら感動した。合唱のすばらしさを見つけられた。
男５	はじめて160人全員で歌って，始めはピアノと指揮者がずれていたり，リズムがずれていたりしていたけど，日を重ねるごとに合ってきて，細かいポイントなども指導してもらい，最初のころより一段と上手になって連合音楽会に臨めたと思います。また，教えてもらったポイントをしっかり意識して歌うことで，上手に歌うことができました。
男６	学年練習で160人が一体となって歌うと，章光堂で響いていてすごいと思った。今回の学習で音楽が楽しいと感じたし，卒音がとても楽しみだ。
男７	コーラス部に７月に入ってから合唱の楽しさを知ることができました。また，合唱の響きの違いも知ることができました。クラスの中で歌うこと，コーラス部で歌うときの違いを見つけられて，楽しかったです。歌がまとまってきたころには，ハーモニーに感動しました。「いざたて」の完成度が高いと思いました。
男８	強弱だけでなく，感情を込めることで，自分の意見ですけど，歌い方ができたんじゃないかなと思いました。自分は歌うことが好きなので，「いざたて戦人よ」でハモるのがとてもおもしろかったです。音楽の授業というのは全然眠たくないし，自分の好きな歌を歌うことができたので，すごく楽しかったです。
男９	コーラス部で歌うのも，ハーモニーがきれいでいいけど，３年全員で歌うのも，みんな１つの大合唱を作り上げるので，趣があるなと感じた。なんだか胸にじんときた。やはり，響きもコーラス部の40人ぐらいで歌うのと160人で歌うのとでは，160人の方が声が深くきこえた。かっこよかった。
男10	音楽は音程や記号通り楽譜を忠実に歌うことが，歌がうまいということだと思っていたけど，今回練習していくにつれ，楽譜がすべてでないことが分かりました。歌詞をしっかり理解して歌うことが大切だと思いました。
男11	みんなでクレッシェンドなどに気をつけながらどんどん曲が良くなっていくのをきいていて，仲間で歌って楽しいし，すばらしいことだと思いました。子音の出し方などに気をつけて，みんなで最高の卒音にしたいと思います。
男12	自分は歌が下手でしたが，「花」の休符の歌い方や友達のアドバイスで歌の表現する方法を知り，作者と共感し，自分なりの歌をつくれることができたことに感動しています。
男13	昔は高い声で低い声が出ず，悔しい気持ちだったのですが，３年生になってから低音の声が響くようになり，さらに歌うことが楽しく，面白くなりました。また，様々な歌を歌ったので，自分自身歌うことの楽しさを感じることができました。連合音楽会では多少のミスなどが全体でありましたが，心が一つになっていた合唱で，感動しました。
男14	授業のたびにどんどん歌えるようになって，とても楽しかったです。今度は卒音に向けて，また授業にがんばって取り組みたいと思います。

男15	自分たちがいろいろな歌い方を練習していると，感じる雰囲気が違っておもしろいと思ったけど，他のパートの歌をきいていると，さらに違いがあって，他の教科や活動にはない驚きでした。
男16	小学校の体育館で歌った後に章光堂で歌うと面白くて，楽しくて，感動してびっくりしました。
男17	僕は音楽が好きなので何をやっても楽しかったです。
男18	歌い方や強弱によって曲の雰囲気などに違いが出ることがおもしろかった。みんなでハモることによって，きれいな和音が生み出され，それに感動した。連合音楽会では，心が１つになっていると実感でき，とても楽しかった。卒音も頑張ろうと思った。
男19	僕は歌うことが好きなので，意欲的に歌うことができました。ポイントを先生が教えてくれたことによって，歌唱力が向上した気がします。連合音楽会のハーモニーはとても綺麗だったのではないかと思います。
男20	歌を歌うっていうことは奥深いことなんだな～と思いました。正直４月から歌ってきた感じはないけど，今考えれば，そういえば４月から歌ってきたな～。そんな気分です。
女１	１人１人がしっかりと声を出すようになり，１つになって感動した。また，160人がそろうようになり，クラス40人ではできない強弱の付け方がすごいと思った。卒音では感動の歌を届けたい。
女２	160人で歌うとクラスで歌うのでは全然違う感じで160人で歌った方が，少し大人っぽい感じがしました。練習を重ねるごとに160人のまとまりが出てきて，やりがいを感じることができました。
女３	私はアルトなのですが，桜の季節で主旋律を歌えたことが，とても楽しかったです。アルトは普段メロディーをあまり歌えず，少しつまらなかったのですが，主旋律を歌ってみると難しかったです。最近の授業では，少しずつ声がよくなっていることを実感できたので，うれしいです。
女４	最初，講堂で歌ったときに，声がきれいで響いていてすごい!!と思ったけど，練習していくうちに，最初以上に，いい声になっていって，聞いていても歌っていても心地よかったです。一番楽しかったことは，やはり本番でした。緊張もしたけれど，みんなで歌った方が楽しいなと思いました。この歌声を卒音にも生かしていきたいです。
女５	授業で細かく歌詞の意味と歌い方を皆で考えていくのが，とても楽しかったです。皆で曲をつくりあげていく感じがしました。連音の練習でも，160人の声が重なるとこんなにも迫力があるのかと感動しました。
女６	音楽を鑑賞するときはすごく楽しくて，桜の季節を天使にラブソングをを聞いて，エンターテイメント風にして歌ったのが楽しかったです。小学校の時のように，体をゆらしながら歌うのが好きなのでそういう機会がたくさんあるとうれしいです。
女７	歌い方によって同じ曲の同じリズムのところでも，歌の雰囲気や歌詞の伝わり方が変わり，授業でいろいろな歌い方でやっておもしろかったです。私は歌は好きだけど，得意ではないので，連合音楽会に向けての授業の中で歌い方などたくさん教えてもらいとても楽しかったです。学んだことを卒音で生かせるようにして，たくさん歌っていきたいです。
女８	おもしろいなと思ったことは，声がすごく変わることです。歌い方でこんなにも変わるんだなと思いました。本番はどちらかというと，あっという間に終わったし，緊張はあまりしませんでした。たくさん考えながら（意識して）歌えたと思います。こんなにも意識して歌えたことにびっくりしているし，うれしかったです！
女９	学年合唱はクラスと違ってすごく声が大きくて迫力がありました。みんなで１つの歌をつくりあげていくことのすばらしさを知ることができました!!高い声は手をくるくるーとすると，出やすくなったり，腰を低くして歌うと力強くて大きな声ができることがびっくりしました！もっともっと上達して，卒音では最高の歌にします♪♬
女10	本番前の学年練習でイマイチだなあと思っていたのに，先生のアドバイス一言で出した歌声ががらっと変わったこと。とても驚きました。いろんな歌い方をして，イメージとあわせることが楽しかったです。もともと歌うことや，合唱をすることは大好きだったけど，連音参加に向けて練習することで，とても歌の素晴らしさに感動できたし，ますます大好きになりました。これからも歌や音楽にかかわっていきたいと思います。
女11	口を縦に開けたり，手や足の動作をつけただけで歌声が変わるのが凄いと思いました。おもしろいと思うのは「Rock'n Roll～十ぴきのねずみ～」「いざたて戦人よ」など，短くてテンポのよい曲を歌うことです。いろいろな曲調で歌うのもおもしろいです。始めはばらばらだったパートがそろうのは気持ちがいいと感じます。
女12	私は歌はあまり得意ではありませんでしたが，連音もあり，一学期よりも口を開けて歌いました。授業中で，ハモリで，みんなの声が１つになってきれいにそろったとき，どわっとくる感動を感じました。桜の季節では，もう卒業する私たちにとって，歌詞的にも共感できるところがあり，歌っていて楽しかったです。先生方の指示でみんなの声や歌が変わったなと思ったときに，１つのことを気を付けるだけで，こんなに歌が変わるのだと思いびっくりしました。これからは卒音もあるので，今までより口をさらに開けて歌いたいです。
女13	少し工夫をするだけで音の響きがだいぶ違っていたので驚きました。ただ歌うだけじゃなくて，歌詞の意味などを考えて歌うと相手にも伝わりやすいのかなと思いました。

女14	休符やクレッシェンドを意識するだけで，歌声や歌の雰囲気が変わったなと実感できました。また，手や足を使って歌うだけで，声量が変わったのですごくびっくりしました。そして作者の言いたい，伝えたいことを考えながら歌うことによって，曲の盛り上がり方も全然違って聞こえました。いろいろ考えながら歌って，難しいと感じたけど，それが楽しかったです。
女15	学年みんなで歌ってクラスで歌うよりも迫力があって章光堂ではきれいに響いてとても楽しかったです。それぞれの歌で作者の思いがあって，それを表現することもできてよかったです。
女16	「私からあなたへの歌」のビートにのるところの練習（リズムをとりながら）がおもしろかったし，身についたと思う。他にも自分が思っていなかった場所の表現の仕方など知らないことだったが，すぐに歌いやすくなったところや，テレビなどの映像を交えてその曲の特徴や思いなど，すぐに理解することができた。また連音での声を遠くに飛ばす方法などよく分からなかったことを動作を交えて教えてもらったので，すぐに実行することができたし，そのことが自分にもわかったのでうれしかったです。
女17	歌に感情や思いをつけると，歌声や声の響きまで変わったのですごいなと思いました。４月から音楽の授業でいろいろな歌を歌ってきて，成長できていたらいいです。歌詞に込められている思いや楽譜に書かれている作者の伝えたいことなどを考えて，歌えるようになりました。練習するたびに合唱曲などみんなの歌声がよくなって，初めて160人で講堂で歌ったときはとても感動しました。
女18	最後の練習で３年生全員の声が重なった時に感動しました。３年生全体で歌うことがあまりなくて初めての感覚だったので，緊張しましたが，力一杯歌うことができました。卒音もあるので，この３年生全体が歌った歌声を忘れないようにしたいです。
女19	授業ではずっと伴奏をしていたので，歌がどんどん変わっていることが分かり，みんなの吸収力はすごいと思いました。連音の時も，最初はあまり声が出ていなったけれど，先生が足で床をつかんでと言うと，とても大きな声が出て，やればできるんだなと思いました。部活が終わっていたのでとても声が出しにくかったです。３月には卒音があります。よかったと言われるような演奏をしたいです。
女20	いろいろな曲でパート練習をした後，初めてみんなで合わせて歌いハモったときにとても感動しました。また，音楽の授業で歌うことはいつも楽しみにしているのですが，何度も授業をして，その歌が馴染んできて，うまく合わせられるようになってからは，さらに授業が楽しいと感じました。
女21	私は吹奏楽部に入っていたこともあり，音楽に関することが好きで，もちろん音楽の授業も好きです。特に，合唱はみんなと心が合わさる一体感や，音が重なって響くときがとても楽しいです。私はアルトで地声を出さないようにするのが難しかったけれど，コーラス部の人などにアドバイスをもらって前より上手く歌えるようになったと思います。卒音に向けて頑張りたいです。

各人がこの題材を終え，さまざまなことを感じている。特に歌い方の工夫に関しては，発声法の工夫（例：生徒の「腰を低くして歌うと歌いやすい」「声が変わる」等）と歌唱法の工夫（例：「歌詞を感じて歌う」，「休符やクレッシェンドを意識する」等）に大別される。TTでの取組の成果が表れている。

(1) 学習した内容や技能を活用する教材選択や題材構成について

実践１では鑑賞と創作，そして表現を関連付けて題材を構成した。学習のねらいと生徒の意識は一致しており，この題材構成，取り上げた教材はおおむね良かった。しかし，創作における課題設定には課題が残った。iPadの活用法についても学習のねらいを達成するために，どのアプリを使うのか吟味する必要がある。

実践２では表現と鑑賞を関連付けた題材を構成した。また，学習内容を活用する教材を選択した。個人の感想からうかがえるように，心をともなった知となってきている。専門性を生かしたTTを活用し，継続的なヴォイストレーニングによって，中学１年生の時よりも歌唱技能も向上している。発声法の工夫と歌唱法の工夫の気づきの複合(スパイラル)が表現方法の成長に繋がっている。

(2) 生徒同士のかかわり方を中心に，自主的な活動が行える場の設定について

実践１，実践２において，多くの生徒が「音楽表現の仲間や自分たちの力でつくりあげていく喜びや仲間との共感」に感動している。さらに生徒が切磋琢磨できることができる場の設定，音楽の判断基準をさらに広げ，失敗をおそれず自信をもって活動できる人間関係づくりを行い，さらなる向上を目指したい。

(3) 教師の子どもの見取りや子どもの自己の振り返り評価を中心にした評価の在り方について

生徒の授業での活動の様子や変容を観察し，生徒の実態に応じて発問を変えたり，授業展開を工夫したりするなど，教師自身が授業を振り返り，改善していくことに生かしている。子どもへ

のフィードバックをさらに行う必要がある。

現在，３年生は以前より，［ハーモニー］［テクスチャ］といった音楽の要素に意識して表現する生徒が増えている。感想からも，楽曲のおもしろさに気付き，音楽的知的好奇心が増してきていると感じる。大きなスパンで音楽的成長を見取るとともに，指導も繰り返し，継続的に行っていきたい。さらに個人内評価を行い，個人の感動した事柄を見取っていきたい。３月に行われる卒業記念音楽会に向けての活動（自主協働Ⅲ）において，どの学年も音楽の授業での学びを活かし，さらに自主的な活動を行ってほしい。

引用および参考文献

ATSUSHI，加藤昌則：2014：『教育音楽中学・高校版４月号』第81回（平成26年度）NHK全国学校音楽コンクール 課題曲作者からのメッセージ

大谷研二，斎木ユリ：2014：『教育音楽中学・高校版５月号』第81回（平成26年度）NHK全国学校音楽コンクール 課題曲演奏へのアドバイス

名島啓太：2014：『教育音楽中学・高校版６月号』第81回（平成26年度）NHK全国学校音楽コンクール 課題曲演奏へのアドバイス

楠敏明:2013:『温故知新！幸せ感じる音楽の力』初等教育研究紀要第47号未来を拓く力の育成（附属４公演共通主題）新しい「知」を作り出す

A.R.ダマシオ：2005：田中三彦訳『感じる脳：情動と感情の脳科学　よみがえるスピノザ』：ダイヤモンド社

小林田鶴子，時得紀子，内海昭彦2011：『表現力を高める「音楽づくり」についての一考察』：名古屋女子大学紀要57